

伊賀市社会事業協会 2005

2005年7月1日 第9号
社会福祉法人伊賀市社会事業協会
発行者 森下達也
編集責任者 西岡時彦
〒518-0032 三重県伊賀市朝屋739番地の2
TEL 0595-21-5545
FAX 0595-23-6670
URL <http://www.ict.ne.jp/~u-s-j/ueno>

格差社会の行方

社会福祉法人 伊賀市社会事業協会
会長 森下達也

過日、所得格差が拡がりつづける現今の社会について、広く意見を問うテレビ討論会が放映されていた。説明するまでもないであろうが、年収二十万円以上の階層と、二十万円以下の階層に二極化されつつある日本社会の現状について、それを是とするか非とするか、はたまたどのような問題意識を持っているのかというフォーラムである。そもそも人類に、何の格差もない社会などというものは過去現在ないであろうが、著しい二極社会へ向って進みつつある現状をどう思うか、ということである。

しかしその討論の中で、若い「成功者」たちの展開する持論が、余りにも単純明快であることに少々驚かされた。曰く「私の成果は、私の頭と努力によって勝ち取ったものです。チャンスは誰にも等しくあるのだから、悔しければ貴方も努力したらよいでしょう。結果としての格差を本人が受け取るのは当然です。」うーん、ごもつとも、そういえば私もかつて会社経営者の端くれだったのだから何も驚くことではないのだろう。

だがしかしである。大戦後日本が再建をめざして突き進んでいた頃、私が教えられたことにはもう少し註釈が付いていた。「日本は戦後西側自由経済社会の一員としてスタートし、市場競争が社会の活力源であるという立場だが、アメリカの経済社会と同質ではない。日本の企業経営者は、日本流所得再分配システムの中で、アメリカのように巨万の富を得ることが出来なくとも、従業員共々よい仕事をしているという誇りを持っている。この連帯と調和こそが社会安定の基盤なのだ。」嗚呼、こんなことを思い出してしまう私が、老いたということか。

二十世紀初頭、あのロシア革命の発端となった「血の日曜日事件」は、皇帝ニコライに対する貧しい労働者たちの請願デモが引き起こしたものであった。百年前にさかのぼらなくとも、今日、貧富格差と不平等感の増大が、ある日突然政治や社会の安定を破壊しはじめるといふ事例は、世界中枚挙にいとまがない。社会の中の格差増大は、決して小さな問題ではないと思うのだが如何。

私は、せめて福祉の仲間だけに訴えたい。福祉という分野にまで格差と不平等感が拡がりはじめている現状を、この辺でくい止めようではないか。傍観することは、福祉の自殺とイコールであろう。



風力発電は、青山高原(室生赤目青山国定公園)の美しい自然と調和しながら、地球にやさしい電力を供給しています。

第二梨ノ木園

開園記念日によせて

「私を支えた言葉・想い出歌」

第二梨ノ木園は、五月一日に開園二十四周年を迎えました。

開園記念日にあたって、ご利用者の方々から「私を支えた言葉・想い出歌」と題して、いろいろな想い出をお聞きしました。遠くなつかしい昔を回想しながら、心に残っているお話を聞かせていただきました。「ずっと心の奥に大事にしていたことやけど」と言いながら話してくださった方もあります。また、失言症の方や言葉の不自由な方には、近くにお話をお話させてい



ご利用者の想いがつまった寄せ書きの前で

ただいておりますと、その方の言おうとされることが伝わってまいりました。そんな皆さんの想いがいっぱい詰まった言葉を寄せ書きにし、記念日行事の席でご披露させていただきます。これからも心に残る想い出を重ねていただけるような毎日をお過ごしいただきたいと思ひます。

混声合唱団 コーロ・Guiの皆さま

なしのきコンサートをありがとう

三月二十六日のデイサービスセンターなしのきはコンサート会場に早変わりしました。混声合唱団コーロ・Guiの皆さまが素晴らしい歌声を聞かせてくださったのです。合唱団のこの日の衣装は、女性にはワイン色のブラウスに白いスカート、男性は白いブレザーと黒いズボン。「ふるさと」や「花」などご利用者の方がよくご存知の曲が、美しいハーモニーとなつて、ラウンジに流れました。一緒に口ずさまれる方々もあり、一曲ごとにわく拍手は、さながらコンサートホールのコーラスを聞かせていただき、ご利用者と職員一同のお礼をこめた惜しみない拍手がいつまでも続いています。



美しいハーモニーを聞かせてくださったコーロ・Guiの皆さま

第二梨ノ木園 第三者評価事業を終えて

各地で特養のサービスの質の評価を目的とした調査事業が行なわれ、第二梨ノ木園でも平成十六年度第三者評価事業を実施しました。調査方法は主として自己採点方式によるもので、ご利用者ご本人とその家族、そして職員の三者にアンケート調査を行ないました。ご利用者とそのご家族からは、施設や職員に対してサービスの質などの要望が、また、職員からは、入居されているご利用者に対しての接し方や介護技術などはこれで良いのかなど、それぞれから意見が出されました。その意見は最

【梨ノ木園】伊賀の民話を「聞いてだーこ」

「むかあーしな、あつたんやーて」と、ゆったりとした伊賀弁で、この地に伝わる民話「忍びの里の物語『こじょうぎつね』」の語りかけが始まりました。蕉門ホール「語り部塾」の皆さまによる語りかけは、やさしく、あたたかく、時に寂しく悲しげで、いつしかみんな民話の中に引き込まれていきます。若い人の中ではあまり聞かれなくなった伊賀弁ですが、民話に耳を傾けていますと、方言の持つ優しさ、美しさとともに、話にこめられた人の心のあたたかさや願いが伝わってくるようでした。私たちの身近にこんな民話があったのかという思いを新たに、「伊賀びと」として、これらの民話を語り伝えることの大切さを、語り部塾の皆さまに教えていただいた思いがしました。次のお話がとても楽しみです。



古き良き伊賀を語り伝えてくださる皆さま

最終的に第三者評価機関が集計し、結果は点数と文章という形で評価を受けました。

この度の評価結果を私たちは真摯に受け止めるとともに、自分たちの仕事を見つめ直す良い機会となりました。今回の事業を終えて、私たち一人ひとりがサービスの基本を再確認し、ご利用者にとつて快適で居心地の良い施設環境にするため、今後とも励んでいきたいと思ひます。



安心、安全の介護サービスを続けています。ご利用者同士の思いやりの輪も広がります。

すびっぴ忍者が勢揃い!

例年四月になると「我がまち伊賀市」のPR事業として、『伊賀上野NINJAフェスタ』が開催されます。今年も市内の保育園(所)・幼稚園児が、四月三日に黄、緑、赤、青の華やかな忍者衣装を身にまとい、大勢の観客に見守られながら、忍者ダンスを披露しました。今年も市町村合併により五歳児総勢八百人となり、午前と午後の部に分かれて参加しました。



元気いっぱい忍ジャズダンスを踊る子どもたち



「こんなに高く跳べるよ」

会場に集まった園児たちは、開会的那一刻は緊張していたのですが、忍たま乱太郎ショーで和やかな雰囲気になり、「私の忍者かっこいいだろう」「こんなに高く跳べるんだぞ」等々…忍者になりきっていました。会場いっぱいにつめかけた保護者は、元気な子どもたちに一心に声援を送ったり、かわいい姿をカメラに収めたりと、会場の雰囲気さらに盛り上げていました。
年長組になって三日目、大きなイベントに参加している子どもたちの表情は、年長になったのだという実感をかみしめているようでした。

絵本でつながる子どもの心

絵本『いっぴきおおかみのそろり』の読み語りを5歳児クラスでしました。“森の中で大声を出しているそろりはいつも一人ぼっち、友だちがほしくてやさしく声をかけたつもりでも、友だちができません。ところが、友だちさがしに疲れて眠っているそろりに、たくさんの動物が寄りそって眠っていたのです。そろりはとびかえるほど嬉しくなりました。”絵本を読み終えると、子どもたちから口々に“よかったなー”との声が聞かれました。その後、お面や森の木を作り始め、自分たちも体を寄せ合い、そろりの気持ちを再現するという、そろりごっこを何日も何日も繰り返していました。

私たち保育士はこのことから、絵本環境を整えることの大切さを、また、子どもたちが絵本を通して育ち合うことのすばらしさを再認識しました。



絵本に見入る子どもたち



親子で絵本を楽しんでいます

こどもの日

子どもたちの手作りこいのぼりが舞う園庭で、乳児も幼児も参加して『こどもの日』をお祝いしました。

おなかの中に風船を入れた大きなこいのぼりを、数人の子どもたちがかかえて園庭を散歩するというゲームや、年長児が作ったこいのぼり



園庭散歩を楽しむ子どもたちとこいのぼり

を砂場やなかよしハウスの一角に隠し、みんなで探しっこをするかくれんぼゲームをして楽しみました。児童憲章に「児童は、人として尊ばれる。」「児童は、社会の一員として重んぜられる。」

「児童は、よい環境の中で育てられる。」とうたわれています。次代を担う子どもたちの未来が希望に満ちたものであるよう、一人ひとりの健全な成長を願う一日でした。



「ミニこいのぼりを見つけたよー」

よもぎ摘みとおだんご作り



春たけなわ、園から二歩足を踏み出すと、たんぽぽが新緑の中で所狭しと咲き誇っています。いつもは、草花あそびを目的に園外に出かけるのですが、今日はおだんごの中に入れる草「よもぎ」を摘もうと出かけたのです。保育士がよもぎを子どもたちの鼻に近づけると



よもぎをたくさん摘んだよ

「あつ、食べたことある」「えっ、こんな草が：」と驚きの声が上がりました。しかし「くさい」といながらも、この葉がおだんごに変身するのだということがおわかり、葉の形が同じものをいそいで探しはじめました。その内、よもぎの葉の裏には白い毛が生えていることを発見し、みんなに知らせてまわる子もいました。

「あつ、食べたことある」「えっ、こんな草が：」と驚きの声が上がりました。しかし「くさい」といながらも、この葉がおだんごに変身するのだということがおわかり、葉の形が同じものをいそいで探しはじめました。その内、よもぎの葉の裏には白い毛が生えていることを発見し、みんなに知らせてまわる子もいました。

いよいよクッキングです。よもぎと白玉粉を混ぜながら、「ぶよぶよして」と感触を楽しんだり、粉がよもぎ色に染められていく美しさに感動の声があがっていました。形や大きさはさまざまですが、給食室でゆでもらい、おやつにいただいた、自分たちで作ったおだんごの味は格別のようにでした。

今後も身近な食材に興味関心が向けられるよう、クッキング保育を積極的に取り入れていきたいと思えます。

そよ風に誘われて「芭蕉の森」へ



自然をこよなく愛した芭蕉さん、その芭蕉さんを偲んで作られた「芭蕉の森」へ、親子で遠足に行きました。市内が一望できる広場で歌をうたい、体操などで心と体をほぐし、句碑めぐりをしました。親子で、句碑に触れながら、俳句作りを楽しみ、その俳句は地区文化祭に出品しました。地域の方々から好評をいただき芭蕉さんの気分になったようです。

また、遊歩道では、珍しい虫や草花に出会い、自然の中でゆったりと親子のふれあいが満喫できたようです。

親子で過ごした数時間でしたが、保護者にも子どもたちにも、自然の恩恵に感謝する、一生の思い出の1ページを綴ることができたと思います。



ふれあいあそびを楽しむ様子



▲真剣なまなざしでおだんごを作る子どもたち



▶よもぎだんごのできあがり！

かしの木ひろば 成人のお祝い 新成人 おめでとう！

かしの木ひろばは、10代から60代までの幅広い年齢層の方々にご利用いただいております。その中で、今年は3名の新成人が誕生しました。先に成人を迎えた先輩から、「昔の成人式はね…」とか、「大人の仲間入りができて、お酒なども少しはやれますね」など様々な成人にまつわるお話を聞かせていただきました。また、仲間からお祝いの寄せ書きもプレゼントされ、人生の節目である成人式行事が、楽しく有意義に行なわれました。3名の方々、あらためておめでとうございます。



新成人を囲んでの記念撮影です

点訳奉仕者表彰おめでとうございます

去る、6月20日・21日の両日広島で開催された第53回全国盲人福祉施設大会において、上野点字図書館で点訳奉仕をいただいている、名張点訳グループ「あかり」の新つや子さんとお内藤美祐子さんが奉仕者表彰を受けられました。

新さんは、10タイトル41冊、4,134ページの点訳、内藤さんは14タイトル65冊、7,341ページの点訳実績があり、長年にわたって当館にご協力いただいております。また、ご両人とも毎週発行されている名張市広報の点訳・校正や発送、視覚に障害を持った学生や生徒の講義資料、教科書や参考書の点訳など、より専門的な点訳を中心にご活躍いただいております。



名張市広報点訳中の内藤美祐子さん(左)と新つや子さん(右)【市福祉センターにて】

ボランティアのみなさんとお花見散策

さわやかな気候に恵まれた四月、かしの木ひろばの利用者の方々は、桜が満開の上野運動公園へお花見に行きました。花吹雪が舞う中、参加された皆さんは、花じゅうたんを踏みながらゆったりと散策をし、桜の花に触れたり、香りを楽しんだりすることができました。

今回は、今年三月に「ボランティア養成講座」を修了した三名の新ボランティアの方も加わっていただきました。現在、二十名余りのボランティアの方が、当施設で行なう創作活動や行事等にご参加くださり、ご協力をお願いしています。



青空に桜の淡いピンク色がとてもきれい！

の方々との交流会など、年間十回の講座を開催しています。今年度の「ボランティア養成講座」の受講を希望される方は、ご連絡ください。案内書をお送りさせていただきます。なお、開講式は七月二十三日に行なう予定です。

【お問い合わせ先】
かしの木ひろば(担当・森中)
☎〇五九五 二七四五



満開の桜を間近で満喫できました

これも、点字や点字図書館の役割を知っていただけたらいいですね。機会をつくってみたいと思います。



館長の説明を聞く小学生たち

平成十七年四月二十八日、伊賀市立新居小学校三年生二十三名が、社会科の校外学習の一環として、当点字図書館を見学されました。生徒の皆さんは職員から、目の不自由な方がどのようにして本を読んでいるのか、読みたい本をどのように探しているか、また、点字図書館の役割などの説明を受けたあと施設見学をされました。最後に点字本の取り扱い方法を聞き、各自が自由に点字図書を手にとって確かめていただきました。「この本読んで」と職員にせがんだり、「わあ！ こんな本もある」といいながら、一冊一冊を大切に読んでいました。

小学生来館
点字図書館って
どんなところ？

お知らせひろば

ご支援ご協力いただいている方々
(平成十六年十二月〜平成十七年五月)

《個人》

— 敬称略・五十音順 —

- 井岡 昭、石原 京子、稻森 光子、犬飼 常教、井上 わか、猪木 千里、上野タエ子、上森ソツ子、岡森眞理子、小川 茂子、小川 秀貴、奥田 英夫、奥田やえ子、尾崎 英治、釜井 孝輝、川浪 玲子、木谷 栄一、久米 光子、黒てる子、榊 悦子、小林ふじ智、榊原 匡章、澤井 和文、澤山 正治、下井 清、庄司 順子、朱雀 文雄、世古 秀次、曾我 京子、竹島 和美、田中 しえ、田中三紀代、田中美代子、谷野 善恵、玉川 弘毅、玉置 宏、玉台 正和、田山紗知子、辻本 秋博、戸高 久昭、富田 幸治、豊田 実、中井 悦子、中井 仁志、中尾 一正、中嶋 三男、長瀬 達也、中原 尚美、中森 勇、中森 順子、西田 誠、西出 成子、長谷川かき、浜口 隆志、日置 富二、広瀬 亮宗、フナヅカ、福田 健吉、福谷 隆男、古川 節郎、別所 法山、前川 重孝、前山 五夫、松永 幸子、松山 義持、三山 勲夫、村井 充子、百北 茂、森 喜良、森下 弘子、森田 満枝、森中 菅子、山口 徳平、山口 芳一、山下 和宏、山本 こと、山本 浜子

《団体》

— 敬称略・順不同 —

ボランティアアグループあゆみ、ボランティアグループミックスユース、上野点訳奉仕グループあい、名張点訳奉仕グループあかり、

上野音訳グループしのび、名張音訳グループこだま、絵手紙ひろば、カマキリ部隊、

- 三田小学校、長田小学校、桑町自治会、三田公民館、三田地区自治連絡協議会、花之木公民館、花之木児童福祉会、白樺地区、花之木地区委員会、長田自治会、長田公民館、古山地区長会、古山市民センター、小田町公民館、小田町自治会、城西地区民生児童委員、古山地区民生児童委員、上野東部市民センター、三重県共同募金会、伊賀市更生保護女性会の会、伊賀市文化都市協会、上野ロータリークラブ、上野東ロータリークラブ、上野視覚障害者福祉会、桂サロン、緑ヶ丘本町いきいきかかれあいサロン、神戸老人クラブ連合会女性部、集門ホール「語り部塾」、混声合唱団コーロ・G.U.I、コーラスこんべいとつ、光都の会、月曜会、水月会、伊賀市上野仏教会、安立寺、西蓮寺、常住寺、黒住教上野中教会所、天理教島ヶ原大教会、射手神社、平井神社、岡八幡宮獅子神楽保存会、西田整形外科医院、広瀬医院、伊賀市上野和牛肥育部会、伊賀北部農協長田ふれあい店、伊賀北部農協古山ふれあい店、小川モーターズ、奥田理容店、西尾デンキ

平成16年度 当法人の決算諸表 (公益事業会計含む)

資金収支計算書 (円)

勘定科目	決算額
経常活動による収入計	2,086,922,726
経常活動による支出計	1,965,484,679
経常活動資金収支差額	121,438,047
施設整備等による収入計	0
施設整備等による支出計	31,229,626
施設整備等資金収支差額	-31,229,626
財務活動による収入計	35,991,000
財務活動による支出計	119,682,513
財務活動資金収支差額	-83,691,513
当期資金収支差額合計	6,516,908
前期末支払資金残高	88,398,834
当期末支払資金残高	94,915,742

事業活動収支計算書 (円)

勘定科目	決算額
事業活動収入計	2,104,285,536
事業活動支出計	2,119,175,592
事業活動収支差額	-14,890,056
事業活動外収入計	67,279,365
事業活動外支出計	67,483,716
事業活動外収支差額	-204,351
経常収支差額	-15,094,407
特別収入計	29,769,868
特別支出計	55,590,899
特別収支差額	-25,821,031
当期活動収支差額	-40,915,438
前期繰越活動収支差額	694,135,921
当期末繰越活動収支差額	653,220,483
基本金取崩額	1,000,000
基本金積立額	0
その他の積立金取崩額	23,380,000
その他の積立金積立額	99,710,000
次期繰越活動収支差額	577,890,483

貸借対照表 (円)

資産の部	
流動資産	342,684,673
固定資産	2,812,085,453
基本財産	1,981,591,385
その他の固定資産	830,494,068
資産の部合計	3,154,770,126
負債の部	
流動負債	346,577,706
固定負債	198,972,671
負債の部合計	545,550,377
純資産の部	
基本金	111,354,259
国庫補助金等特別積立金	1,379,992,758
その他の積立金	539,982,249
次期繰越活動収支差額	577,890,483
純資産の部合計	2,609,219,749
負債及び純資産の部合計	3,154,770,126

児童クラブ“風の丘”

平成十七年四月、伊賀市ゆめが丘に在任している小学一・二年生の保護者の希望がかなって、放課後児童クラブ風の丘がスタートしました。

現在は、旧友生小学校内で学童保育を実施していますが、四月に移転新築した友生小学校の敷地内に、間もなく学童保育棟が完成する予定です。新施設では、すでに利用している三十四名に加え、新たに二十六名が加わり計六十名で再スタートします。保育所を卒業し就学した子どもとその保護者が安心して利用できるよう、その役割を果たしていきたいです。



“風の丘”完成予想図

編集後記

7月に入り、本格的な夏はすぐそこに来ているようです。今月7日は七夕祭。1年に1度、織姫(こと座のベガ)と彦星(わし座のアルタイル)が天空の天の川をバックにして、逢瀬を楽しむ日とされています。夜空を見上げ、満天の星を眺めながら短冊に願い事を書いて romantickな七夕伝説に思いを馳せるのも良いのではないのでしょうか。さて、おかげをもちまして第9号を発行することができました。次は節目の第10号です。今までのノウハウに磨きをかけて、充実した中身に作り上げて皆様のお手元にお届けできるよう願っています。どしどしご意見、ご感想などを頂戴できればこの上なく幸いです。(編集子)

